

4月17日（月）その7 「激震」と「顔の表情が見える交流」の2題

私は金曜日は休日だったので、家でのんびりと過ごしました。ちょうどその日は、昨年熊本を巨大地震が襲った日で、朝から熊本関連のニュースでいっぱいでした。昼頃、テレビを見ていると大激震のニュース速報が飛び込んできました。千葉県我孫子市でのベトナム国籍の小学3年生レェ・ティ・ニャット・リンさんの死体遺棄事件の容疑者が、子ども達の安全のため毎日のように見守り活動をしていた我孫子市立六実（むつみ）第二小学校の保護者会長の渋谷恭正（やすまさ）だとの速報です。渋谷容疑者は、リンさんの捜索活動に参加したり、リンさんをベトナムのお墓に埋葬するために帰国する両親の資金カンパを呼びかけたり、入学式で保護者代表で式辞を述べたりしていたとのことである。

蛍光色の見守り隊の服を着て、毎日のように見守り活動を行い、子ども達ともハイタッチをしていたという渋谷容疑者。子ども達の登下校中の安全・安心を守るべき立場の人が、このようなキチガイじみた犯罪を起こしたのでは、どうやって子ども達の安全・安心を守ればいいのか……。

このような事件の後の「信頼回復」は、容易ではない。学校は、見守り隊の方々の自覚を促しつつ、萎縮することなく地道な実践の積み上げをしてほしいものである。

さて、金曜日の夜は南部広域行政組合の交流会があり、教育研究所だけではなく、新炉建設準備室や施設課、総務課の皆さん全員で、楽しいひとときを過ごしましたね。普段の勤務中では見られないような素顔の一部を見たような気がしました。

沖縄の社会は狭いので、「えっ！」と思うような人のつながりがあつたりします。私は知□係長から「大里中時代は、息子がお世話になりました。」と言われて、「えっ！」。3年間一緒に大里中生活を送った知□○○君のお父さんだとわかりました。それから渡□利さんから「与那原中にもいましたよね。」と言われて、「えっ！」。なんと私が与那原中教頭になった平成14年度の3年生だという。家に帰ってアルバムをめくってみたら……「いた！」。

野球部で、イケメンの○○君の写真がこちら!!（見せる）

中学時代の渡□利さんの写真がこちら!!（見せる）

普段はしかめっ面して仕事をしているように見える原□課長の、手もよく動き表現力豊かなお話や、研究員の顔と名前を完全に覚えた知□局長のお話など、すてきな素顔がのぞけたような気がしました。

私はいつもバックにデジカメが入っているので、とびっきりの笑顔やおもしろ酔顔などのスナップを30枚ほど写しました。それでプレゼン（1枚2秒の自動送り）を作りました。組合内の共有サーバーに入れて置きますので、コピーをしてゆっくりご覧になってください。ついでにこの前見せた、南部総合福祉センター内の樹木や花のアップの写真を加えて120枚程度にしてあります。「240秒の楽しい時間」を過ごせると思いますよ。

人を知ることは大きな財産です。研究所で終わりではなく、またいつかどこかで、あなたの人生に関わってくるかも知れませんね。新しい絆を大切に、日々の研修を「一人足れ一足れ一」（ちゅいたれ一だれ一）、「笑れ一福い」（われ一ふくい）の精神で、頑張りましょう。

4月18日（火）その8 栄光と挫折ー強い思いを伴った努力ー

先週の4月12日（水）は、浅田真央選手の引退会見がありました。テレビや新聞、ネット等のメディアは、かなりの時間やスペースを割いて、浅田の記者会見の様子やこれまでの活躍の特集などをやっていて、いかに浅田真央が国民的スターであるかを物語っていた。

私が初めて浅田真央を見たのは、彼女が14歳でGPファイナルで優勝したときだったような気がする。ピンクの衣装を着ていて「天真爛漫、純真無垢な笑顔」は、華があり、将来の活躍を予感させた。「すごい選手が出てきたな！」と思った。年齢制限で2006年トリノオリンピックに出られなかったのを覚えている。満を持して出場した2010年バンクーバーオリンピックでは、トリプルアクセルを3回成功させたが、ライバルのキム・ヨナ（韓国）に競り負けて銀メダルだった。

「何が何でも金メダルが取りたい。」との強い思いで迎えた2014年ソチオリンピックは、SPでまさかの16位と出遅れた。しかしフリーではトリプルアクセルを成功させ、圧巻の演技で高得点をたたき出し6位と盛り返した。

「ソチで金メダルを取り引退」と、決めていた浅田の心は揺れた。「引退と現役続行はハーフハーフ」と修正して一年間の休養。そして考え抜いて出した答えは現役続行だった。しかし他のトップの女子選手がほとんどやらないトリプルアクセルは、浅田の膝や体に大きな負担をかけ、度重なるけがに苦しむようになった。年末の全日本選手権で惨敗し、浅田は引退を決意した。

引退の記者会見で、「体力も気力もすべて出し切った。何も悔いはない。」「フィギュアスケートは、人生かな！」とさわやかな笑顔で語っていた。栄光も挫折も味わいながら、「人生そのもの」といえるほど打ち込んだのである。オリンピックで金メダルは取れなかったけど、金メダルに向けて最大限の努力をしたことや浅田の果たした役割を日本中の誰もが認めている。

私は浅田を見ていて、柔道60キロ級一本投げに磨きをかけ、1996年アトランタ、2000年シドニー、2004年アテネオリンピックの3連続金メダリストの野村忠宏を思い出した。野村は「オリンピック3連覇」を成し遂げた後も、引退しなかった。しかし度重なるけがに苦しみ、何度も手術に耐え、40歳になるまで現役選手として柔道を追求した。2年前あるテレビ番組で、満身創痍でケガと戦いリハビリに励む野村の姿を見て、とても感動した。なんと精神力の強い人だろうと思った。

2015年8月29日、全日本実業団選手権・最後の大会で、野村の代名詞ともいべき「背負い投げ」で2勝したが、次の試合で逆に豪快な「背負い投げ」で負けた。負けた後、野村はしばらく立ち上がれなかった。

翌日だったか、さわやかな笑顔で引退記者会見に望んだ野村は、「弱かった時代の方が長かった。開花するまでの長い時間を諦めずに頑張った、思いを伴った努力は本物だと思う。」と、語っていた。

浅田や野村は世界のトップの場所で、栄光や挫折を味わいながらも、何度も自分の限界を超えた。トリプルアクセルや背負い投げにこだわり、「強い思いを伴った努力」でとことん追求し続けた彼らの引退記者会見での笑顔は、すべての力を出し切った満足感に溢れて輝いていましたね。

4月20日（木）その9 学校の印刷機の歴史ーガリ版→全自動印刷機ー

私は毎朝 7:30 の NHK・BS 放送の朝ドラ「ひよっこ」を見てから、出勤しています。ドラマの時代背景は 1964 年東京オリンピックの直前。主人公の「谷田部みね子」は、茨城県の奥茨城村（架空の村）に住む高校生です。東京に出稼ぎに出た父親が、突然蒸発してしまうところからドラマが始まりました。リアルタイムで体験してきた時代なので、背景や小道具も楽しみです。昨日は女子のブルマーと男子の白ズボンで「聖火リレー」をする場面が、おとといは、「ガリ版」で印刷する場面が登場していました。

今日は主人公の谷田部みね子のはいていたブルマーについて・・・佐口本さん、よだれ、よだれ（笑）・・・ではなくて、ガリ版や印刷機のお話をします。

記録媒体として歴史的には、アルタミラやラスコーの洞窟の壁面、バビロニアの粘土板、エジプトのパピルス、ヨーロッパの羊皮紙。そして 2 千年ほど前に中国で「紙」が発明されました。日本の古い時代には、「木簡」や「竹簡」というのがありました。紙は 7 世紀頃に中国から日本に入ってきたようですが、その頃はまだ印刷の技術はなく、筆と墨を使った「写本」が行われていました。さらには石碑などに墨を塗って紙をプレスして文字を記録する「拓本」という方法もありました。拓本はやがて「木版画」に発展し、多重版画の浮世絵などを生み出しました。また木版に文字や絵を彫り込んで印刷した「瓦版」という新聞もありました。

1960 年代（昭和 40 年代）の学校には、印刷機として謄写版（ガリ版）というのがありました。これは発明王のトーマス・エジソンが 1893 年に完成させたものです。謄写版は電気がなくても使えるので、今でも発展途上国に日本から輸出しているそうです。パラフィンや樹脂、ワセリンなどが塗られた原紙というピラピラの紙に、鉄筆を押しつけて字を書いていくのです。そのときガリガリと音が出るので、ガリ版と呼ばれていました。原紙をガリ版にセットして、インクのついたローラーを押しつけていくと、下の紙に文字が写るようになっていました。それを一枚ずつめくりながら、印刷していくのです。原紙が破れてしまうと、印刷ができなくなります。

1960 年代後半になるとボールペン原紙が作られました。鉄筆がボールペンに変わり、大変作業が楽になりました。その後革命的な「ドラム型スキャナ」が開発されます。回転する筒状のドラムがあって、右側に原稿をセットし、左側に原紙をセットしてスイッチを押すと、自動で原稿を読み取り、原紙に刻み込んでいくのです。イラストや新聞紙などもスキャンすることができるので、革命的でした。すばらしい教材を作ることができました。その頃まで、製版機と印刷機は全く別の機械でした。

それから両者が一体となった現在の印刷機「全自動印刷機」が開発されました。たしか平成の初め頃です。手を汚すことなくスイッチを押すだけで製版、印刷をしてくれる革命的なものでした。コピー機も性能のいい機械は、FAX 送信や PDF 原稿の作成など、パソコンと直結していろいろなことができるようになっていきますね。

印刷機のようにこの 50 年で大きく変化したものもあれば、傘や革靴、背広のようにほとんど変化していないものもありますね。

私の精神年齢も、17 才のオージャーニーサー（青白き青年）のままです。